

## 中小区画ほ場における小型汎用コンバインの導入条件

### 【1 成果概要】

(1) 中小区画ほ場での小型汎用コンバイン（図2）の作業負担可能面積（適期限内に作業できる面積）等は、次の表のとおりです。

表 小型汎用コンバインの作業能率、作業負担可能面積

	水稲	大豆	そば	なたね
ほ場作業能率(時/ha)	3.9	2.8	2.6	5.6
作業負担可能面積 (ha)	20.3	25.2	28.2	16.3
損益分岐点面積 (ha)	14.1	22.7	25.0	11.6

注)  
 ・作業負担可能面積は、適期限内に作業できる面積  
 ・損益分岐点面積は、コンバインの機械利用経費(固定費+変動費)が作業委託料を下回る下限面積  
 参)小麦では、他の試験より、作業負担可能面積 31.6ha、損益分岐点面積 21.9ha

(2) 上記の作業負担可能面積を上限に、本機を水稲と大豆に汎用利用した場合は、水稲を自脱型コンバイン、大豆を大豆用コンバインで収穫する体系に比べ、収穫に係る機械利用経費を約3割低減できます（図1）。

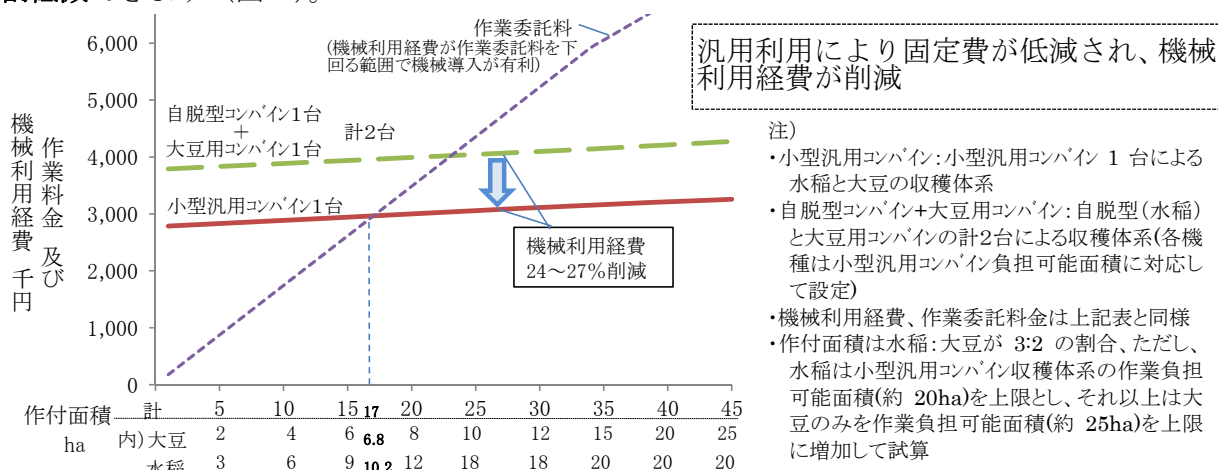


図1 小型汎用コンバインの水稲と大豆への汎用利用による機械経費削減効果（試算）

### 【2 留意事項】

- (1) 小型汎用コンバイン（図2）は、全長4.8～5.5m、全幅2.15m、刈り幅1.7m、機体重量3.4～3.7tで4tトラックに積載可能です。
- (2) 収穫適応作物は、稲、麦、大豆、そば、なたねです。
- (3) 水稲での収穫脱穀ロスとは自脱型コンバインと同程度です。



図2 小型汎用コンバイン（供試機）  
（M社製、VCH650）